



展示の風景

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室

【期間】 平成26年2月1日（土）～5月25日（日）

## 第16回企画展「植物学者・正宗巖敬と植物図」の開催

今回の企画展では、金沢大学理学部植物第一講座初代教授の故正宗巖敬博士が遺した植物図を展示しています。植物図とは、ポタニカルイラストレーションともいい、植物の形態や構造を正確に記録したもので、新種の発表や、分類学の専門書には欠くことができません。正宗博士の分類研究のための資料として描かれた、当館所蔵の2,147点の植物図のうち、約100点を初公開するとともに、博士の研究の歩みや、一般にはなじみの薄い植物図についての解説をしています。

### 【正宗巖敬の植物研究】

博士は、植物地理・分類学の分野で大きな功績を残した研究者です。台湾、琉球列島、屋久島などに自生する南方の植物について、多くの論文や調査報告を残しました。金沢大学に着任後は、北陸地方の植物を主体とした標本庫を立ち上げたり、学術雑誌『北陸の植物』（現『植物地理・分類研究』）を創刊するなど、研究や教育に貢献しました。また、博士はラン科植物の分類研究でもよく知られ、

晩年は集大成となる図譜『日本の自生蘭』の出版に没頭しました。

### 【正宗巖敬と植物図】

研究者は自ら植物図を作成するわけではなく、技術職として雇用された画家（画工）に図を描かせるのが一般的でした。博士が遺した植物図も、長年の研究の間に複数の画家によって描かれたものです。それらのほとんどは、博士自身の学習用のメモとして描かれた未発表の図で、鉛筆による下書きにペン入れがされていない未完成のものもあります。台北帝国大学で教鞭をとっていたため、台湾産の植物の図も多く、文字原稿が添付されているものは、「東亜植物図譜」というタイトルで、1958年から1978年にかけて、『北陸の植物』に掲載された版下（原稿）の一部です。

今回の展示では、画家や描かれた時代が異なる植物図を、博士の直筆原稿や画家への指示書、図の制作に用いられた標本、図のもとになったスケッチ、下絵などの関連資料とともに観覧することができます。

## 【植物図の見方】

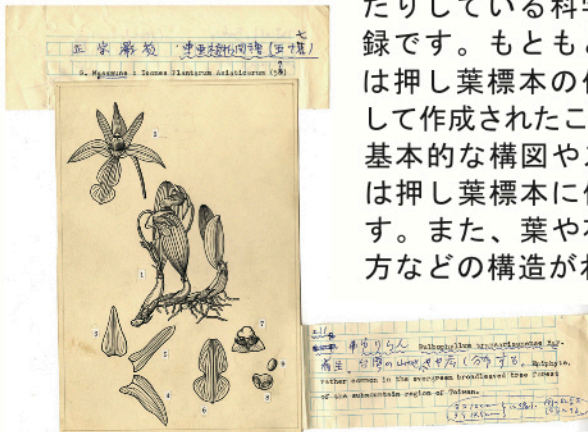
植物図は、植物を題材にした一般的な絵画とはかなり異なります。絵画は画家の感性で表現されているのに対して、植物図は分類学上重要な部位が強調されたり、典型的な特徴を示す工夫がされ

たりしている科学的な記録です。もともと植物図は押し葉標本の代わりとして作成されたことから、基本的な構図やスタイルは押し葉標本に似ています。また、葉や花のつき方などの構造がわかるよ

うに、できるだけ重なり合いがないように描いたり、あえて平面的に描いたりすることもあります。

写真で植物をそのまま写すことが、誰でもできるようになった今日でも、植物図は図鑑や論文の中で使われ続けています。それは、植物図が取捨選択された情報を描くため、植物のもつ特徴を写真よりもわかりやすく表現しているからです。近代植物学の発展に大きな役割を果たしてきた植物図を通じて、植物学への関心を深めていただければと思います。

(中野 真理子)



学術雑誌『北陸の植物』に掲載された植物図

## 皆さんからの情報が貴重な資料

当館では、主に石川県の自然史資料と情報を収集し、県民の財産として利用していただけるよう、それらの整理を行っています。植物、動物、化石、岩石など幅広い分野がありますが、職員が野外へ採集に行っても、なかなか発見できないものもあります。希少な生物や化石は、偶然に発見されたものが提供されることがほとんどです。

哺乳類では、近年新たに分布地が広がっていて、被害問題も含めて話題になっているものがあります。外来種であるアライグマが南加賀地方で増え、農業や家屋に被害を与えていることが問題になっていますが、ついに金沢市でも見つかри、駆除されました。この個体は、市役所を通じて当館に持ちこまれ、標本用として現在保管中です。また、「金沢市の郊外の山中にニホンジカの角が落ちていたが、ここにもいるのだろうか」と、持って来られた方もいました。そこは近年シカが現れるようになった場所でしたが、いくつか目撃例があっただけで、標本として採集されたのは初めてでした。他にも、標本資料はいろいろな調査に利用され、収蔵されている標本との照合から、埋蔵文化財

から発掘された動物の角や骨の鑑定に役立ったこともあります。

当館の活動は、登録されているボランティアの皆さんの自然史資料の収集と整理が大きな原動力となっていますが、一般の方が持ち込む情報も貴重な記録になります。広く県民の方々からの資料の提供をお待ちしています。

(水野 昭憲)



金沢市森本の山中で見つかったシカの角

## 4月～9月の講座・イベント案内

第16回企画展「植物学者・正宗徹敬と植物図」 会期：5月25日(日)まで

4月

- 26日(土)ミクロの化石をみつけよう  
13:30～15:30/館内/小1～大人/23名/4月1日より申込開始
- 27日(日)大人のための植物学講座<特別編>  
「植物図をトレースしよう」  
9:30～12:30/館内/高1～大人/20名/4月1日より申込開始
- 29日(火・祝)アンモナイトのレプリカ作り  
13:30～15:30/館内/小1～小6/15名/4月1日より申込開始

5月

- 6日(火・振休)講演会「植物図とは何か？」  
14:00～15:30/会場：自然史資料館/どなたでも/100名/申込不要

6月

- 21日(土)里山のホタル観察会  
19:30～21:00/館内外/小3～中3/16名/5月21日より申込開始

第17回企画展「セミのふしぎ展@いしかわ」 会期：7月5日(土)～11月30日(日)まで

7月

- 19日(土)夏の夜の昆虫採集会ーライトトラップをしかけようー  
19:00～21:00/野外/小3～中3/16名/6月19日より申込開始
- 21日(月・祝)植物の色の秘密をしらべよう  
10:00～12:00/館内/小3～小6/16名/6月21日より申込開始

8月

- 2日(土)昆虫標本作成講座ーチョウ・トンボ・セミ編ー  
10:00～15:00/館内外/小3～中3/16名/7月2日より申込開始
- 10日(日)ペットボトルで顕微鏡ができちゃうの？  
13:30～15:00/館内/小1～小6/30名/7月10日より申込開始
- 17日(日)押し葉で植物ずかんをつくろう  
9:30～12:00/館内/小4～高3/20名/7月17日より申込開始
- 23日(土)昆虫標本作成講座ー甲虫編ー  
13:30～15:30/館内/小3～中3/16名/7月23日より申込開始

## 自然史資料館の地学標本

当館の地学収蔵庫には、県内に分布する地層から採集された化石を中心に、約2万点の標本が保管されています。それらのほとんどが寄贈されたものですが、その中で多くを占めるのが、松浦信臣博士より寄贈していただいた化石です。金沢市出身の松浦博士は、金沢大学を卒業後に石川県の教員として、中学校・高校で教鞭をとられるとともに、化石の収集と研究に努められました。当館設立の際には、収集された標本をすべて寄贈され、その後も、当館の活動に協力していただきましたが、昨年御逝去されました。生前の御厚情に深く感謝するとともに、松浦博士の功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

地学標本の大半は、開館当初から仮登録されて収蔵庫に保管されていたのですが、昨年ようやく寄贈と登録の手続きが実行されることになりました。また、ここ3年の間で、地元の化石愛好家の方々が、主として大桑層（第四系更新統）より発見・採集された化石を、快く当館の標本として収めてくださるようになり、標本の数も増え続けています。

これから、すべての標本を当館の正式な収蔵品

として登録する手続きを実施していくこととなりますが、登録を完了した標本から、それらの映像を含めて随時インターネット上で公開することで、世界中の人々に情報を提供・発信していきたいと思えます。それにより、当館の収蔵標本について、多くの一般の方々に関心を持っていただくとともに、専門家の方々には研究に利用していただくことを期待しています。（桂 嘉志浩）



地学標本収蔵庫（手前の棚に配架されているのは、松浦博士の寄贈標本）

### 博物館実習の実施

平成25年度は、石川・富山・岐阜から計4名の学生を博物館実習生として受け入れました。実習後に寄せてくれた感想をご紹介します。

#### Y・Yさん(金沢学院大学)

実習の7日間を通して、学芸員の仕事量の多さを知るとともに、イベント時、また、資料の作成と保管など、大きな責任がある職務であることを実感しました。標本の作成、イベントなどの教育普及について学び、学芸員の方の気配りの多さを知り、また、企画展示案を作成させていただいたことにおいても、企画に意味を持たせることへの難しさを学びました。全てが貴重な体験となりました。自然史資料館で館務実習をさせていただいたことで、自然史だからこそ、触れることで学ぶことができ、それが、自然史を扱う博物館だからこそその魅力であると実感することができました。ありがとうございました。

#### T・Aさん(富山大学)

本実習でまず驚いたのは、展示に凝らされた工夫の多さでした。どのような人をターゲットにするのが非常に重要だと感じました。標本作りでは、化石、植物、昆虫と様々な標本を作らせて頂きました。ここでは、標本の持つデータが非常に重要だということを知りました。また本実習では、ミニ展示として1つの企画を実際に行わせて頂きました。ここでは、伝えたい情報を伝えることが如何に難しいかを実感しました。そしてここでも、どのような人をターゲットにするのが非常に重要だと改めて実感しました。本実習で学んだことを活かし、今後もより良い学芸員を目指していきます。お忙しい中、貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

8月

- 24日(日)バックヤードツアー - 資料館の裏側をのぞいちゃおう - 13:30~15:30/館内/どなたでも/45名/7月24日より申込開始
- 30日(土)恐竜博士養成入門講座 - 実物に触って学ぼう(1) - 10:30~12:00/館内/小1~小3/30名/7月30日より申込開始
- 30日(土)恐竜博士養成入門講座 - 実物に触って学ぼう(2) - 14:00~15:30/館内/小1~小3/30名/7月30日より申込開始
- 31日(日)恐竜博士養成初級講座 - 実物に触って学ぼう(1) - 10:30~12:00/館内/小4~中3/30名/7月31日より申込開始
- 31日(日)恐竜博士養成初級講座 - 実物に触って学ぼう(2) - 14:00~15:30/館内/小4~中3/30名/7月31日より申込開始



- 表記は、実施時間/活動場所/対象/定員/申込期間の順です。
- 電話でお申し込みください。
- 詳細は当館にお問合せいただくか、ホームページをご覧ください。  
申し込み TEL : 076-229-3450  
当館HP : <http://www.n-muse-ishikawa.or.jp/>



9月

- 28日(日)自然史講演会「世界のブナ林、日本のブナ林」  
14:00~16:00/会場:自然史資料館/どなたでも/100名/申込不要

予告

# 第17回企画展 「セミのふしぎ展@いしかわ」

【場所】 県立自然史資料館 2F企画展示室  
【期間】 平成26年7月5日（土）～11月30日（日）

公園の木々から聞こえてくる賑やかな鳴き声、あちこちで見つかる沢山の抜け殻。夏の到来を告げるセミは、古くから日本の風物詩の一つです。そのため、私達にとってセミは最も身近な昆虫の一つと言えます。そんな慣れ親しんだセミですが、彼らは一生のほとんどを見えない土の中で過ごすというユニークな生活をしていることもあり、その暮らしにはまだ多くの謎が残されています。

例えば、北米には13年または17年に一度大量発生する素数ゼミがあり、なぜこのような奇妙な生活をするようになったのか、現在でも完全には明らかになっていません。日本では、これまで主に西日本に生息していたクマゼミが、最近になって分布域を拡大しており、北陸地方でもクマゼミが見つかるようになりました。石川県では、近年、金沢でスジアカクマゼミ（写真）が、小松でシタベニハゴロモ（セミと同じカメムシ目の仲間）が発見され、話題になりました。これらは東アジアのどこか別の国からやって来た外来種と考えられていますが、なぜ石川県にだけ定着したのか、よくわかっていません。また、人の社会や文化とセミの関わりを見てみれば、中国ではセミの幼虫は美味しい食材として調理され、抜け殻は「蟬退」という漢方薬になり日本でも売られています。

本企画展では、そんなセミにまつわる様々な不思議をテーマに、石川県のセミに加え、その他の日本のセミから世界のセミまでを幅広く集め、標本や抜け殻、その他関連資料を展示します。この夏、意外に興味深い「セミのふしぎ」の世界を覗いてみてはいかがでしょうか。

（嶋田 敬介）



金沢市内で見つけたスジアカクマゼミ。翅の脈や足の一部が赤橙色をしているのが特徴。

## 利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 入館料：無 料
- 休 館 日：12月29日～1月3日
- 駐車場：完 備（大型バス駐車場）

## 交通案内



### 【バスをご利用の場合】

- 金沢駅東口バスターミナル3番乗り場  
『12 湯涌温泉ゆき』→【銚子口下車】→徒歩約10分
- 『12 北陸大薬学部ゆき』→【銚子口下車】→徒歩約10分
- 『12 北陸大太陽が丘ゆき』→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分
- 金沢駅東口バスターミナル6番乗り場  
『95 北陸大太陽が丘ゆき』→【北陸大太陽が丘下車】→徒歩約10分

制作：指定管理者 特定非営利活動法人石川県自然史センター

石川県立自然史資料館

〒920-1147 石川県金沢市銚子町1-441  
TEL 076-229-3450 FAX 076-229-3460  
URL <http://www.n-muse-i-shikawa.or.jp/>